

●障害者の視点で街中点検 9月

27日、崇城大の学生や市職員ら約40人が、車いすやベビーカーを押して市中心部を歩いた。バリアフリーの街づくりに生かそうと同大工学部の古賀元也准教授の研究室が開いた。参加者は、下通アーケードや銀座通りを身体障害者と巡り、道路の凹凸や利用可能なトイレを確認。4年の大塚虹彦さん(22)は「青信号の時間や段差の多さなど、交通弱者への配慮はま



車いすに乗って歩道の段差を確認する参加者＝熊本市中央区

だ不十分」と話した。研究室は身障者向けの道案内アプリ開発を目指している。